



2<sup>e</sup> Colloque international du  
Programme de Recherche d'Intérêt Régional  
Vente Directe Bretagne Japon – PRIRVDBJ



Université de Rennes 2 Haute Bretagne  
6-7-8 Novembre 2008

PRIRVDBJ ブルターニュ地方審議会後援地方振興研究プログラム  
(農産物の産消交流の日本とブルターニュを基盤とした比較研究)

第2回日仏国際研究会  
日仏友好150周年記念文化事業

「分かち合う農業」  
産と消の連環を基盤とする産直農業のあり方と可能性を問う

日時、場所

2008年11月6-7-8日 フランス、レンヌ第2大学

主催

レンヌ第2大学 社会人類学系研究室・レンヌ日本文化研究センター所属、農産物産消交流研究会

註

発表時間 一人20分 日仏同時通訳つき 発表後10分の質疑応答  
プログラムに発表予定が記載されている方は原稿を9月15日までに雨宮宛  
([marchiroko@yahoo.co.jp](mailto:marchiroko@yahoo.co.jp)) にメール添付で送ってください。和文の字数は1万字、字の大きさ、  
10, 5ポイント、行間1, 5を厳守してください。また最初のページに自分の名前とメールを  
必ず書いてください

9月に、レンヌと東京でそれぞれ研究準備会を開きます。発表原稿を持ち寄って、事前協議をする  
ためです。会場、日時については、改めてお知らせしますが、東京は下旬の予定です。  
仮プログラムに発表の内容を数行書き添えました。発表は研究会のあとで編集出版の予定があり  
ますが、採用原稿は学会のあとで、選考委員会が決めることになっています。

仮プログラム

2008年11月6日 木曜日

09時 受付

09時30分 開会 学長挨拶など

10時30分-12時30分

第1セッション：「農業という営みの意味」

*Qu'est-ce que l'Agriculture pour les hommes en société ?*

1 Alessandra Corrado アレッサンドラ・コラド Chercheuse en Sociologie et Sciences  
Politiques de l'Université de Calabre, en Italie (イタリア カラブル大学社会政経学研究院)  
« La nourriture des alliances - Les innovations de l'agriculture paysanne en Italie » (発表 仏語)

Organisateur : CRCJR/LAS  
(EA2241)

Laboratoire de recherche  
de l'université Rennes 2 Haute Bretagne

PRIR-VDBJ = Research Programme of Regional Interest

by an international PEKEA Working Group, linked to  
PEKEA project : <http://www.pekea.org>  
A Political and Ethical Knowledge in Economic Activities





2<sup>e</sup> Colloque international du  
Programme de Recherche d'Intérêt Régional  
Vente Directe Bretagne Japon – PRIRVDBJ



Université de Rennes 2 Haute Bretagne

6-7-8 Novembre 2008

「食が結ぶ産と消の絆-イタリア農民の新しい取り組み」

食産業が巨大なビジネスになる一方で、小規模農業を維持するために生産者と消費者が結びつく産直ネットが広がってきた。産直によって、農民は農業の本来の姿に立ち返ることができる。自分の力で、質のいいものをじっくり作り続けていくことは、農民の誇りではなかったか。量産の機械化農業に奪われてしまった農民の誇りをと農業の本来の姿を、産直は取り戻すことができる。イタリアの産直ネットの例を紹介する。

**2 村松研二郎 Kenjirô Muramatsu** (産消交流研究会メンバー、ベルギーのリエージュ大学博士課程在学中)

« Approche citoyenne et durable de l'Agriculture – un projet pour l'agriculture de type Ikigai » de la Ville de Toyota » (発表 仏語)

「豊田市の生きがい型農業の取り組み- 環境にやさしい市民の農業」

生涯教育の一環に取り込まれた「農ライフ」プロジェクトは、地域の農業を支え、小規模多品目の高齢者産直の利点を前面に打ち出す試みである。農のある暮らしは、高齢者に生きがいを与え、農業の本質を捉える視点をはらんでいる。

**3 Yvon Le Caro イヴォン・ル カロ** (産消交流研究会メンバー、レンヌ第2大学、地理学)

« La vente directe en Bretagne aujourd'hui : l'agriculteur en situation de médiateur écouménéal ? » - en français [note : œkoumène = espace habitable de la terre] (発表 仏語)

「ブルターニュの現代の産直 - 人と大地を結ぶ農業の本質」

産直は、土から切り離されてしまった都会の消費者に、土へ回帰するきっかけを与えてくれる。農業は、人と人の命の糧を育む大地を、調和的に結びつける連環のいとなみといえよう。

**4 Ali Ait Abdelmalek アリ・アイト アブデルマレク** (レンヌ第2大学、社会学)

« Approche ethno-sociologique de l'allergie alimentaire et de la nutrition » (発表 仏語)

「食アレルギーと栄養の民俗- 社会学的考察」

狂牛病で食の安全への不安が高まる一方で、年々食品アレルギーが増加してきている。人は何をどう食べて生きればよいのか。食の問題は、生命の維持を超えた社会や文化に根ざした問題である。

昼休み

14時-16時

## 第2セッション：「産直に問い直される人とモノの交流」

*Les modes de relations et d'échanges ré-interrogés par la vente directe*

**1 三浦敦 Atsushi Miura** (埼玉大学 人類学)

« Economie sociale et système économique de propriété- Développement coopératif dans une province philippine à la lumière de la théorie proudhonienne- » 「共済型経済と私有財産の管理のあり方- フィリピンの農村の共同組合の発展を妨げる要因をプルドンの理論をもとに考察する」

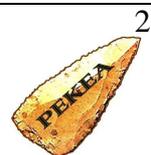
フィリピンで零細農民の救援手段として次々につくられた協同組合は、農民を貧困から解放するには至らない。その一方、フランスのフランシュ=コンテ地方のチーズの生産者たちの協同組合

Organisateur : CRCJR/LAS  
(EA2241)

Laboratoire de recherche  
de l'université Rennes 2 Haute Bretagne

PRIR-VDBJ = Research Programme of Regional Interest

by an international PEKEA Working Group, linked to  
PEKEA project : <http://www.pekea.org>  
A Political and Ethical Knowledge in Economic Activities





2<sup>e</sup> Colloque international du  
Programme de Recherche d'Intérêt Régional  
Vente Directe Bretagne Japon – PRIRVDBJ



Université de Rennes 2 Haute Bretagne

6-7-8 Novembre 2008

をつかって成功している 両者の明暗を分かつ要因の一つは、組合が利益を会員に還元しているか、会員に実利をもたらしているか、ではないか (発表 仏語)

2 末原達郎 Taturô Suehara (産消交流研究会メンバー、京都大学 農業経済学)

« Une forme nouvelle de Yui (système traditionnel d'entraide)-l'interaction entre citadins et paysans du Japon d'aujourd'hui (exemple des rizières entretenues par l'ensemble de citadins et ruraux du groupe de Yui) » 「現代日本における都市民と農民の結びつき-新しい結い-」

「結い」は、小規模農家が労働力の相互扶助に活用した、仲間の輪である。それが、90年代から都市民と農民の共有田で、田んぼの管理によみがえり、都市と農村を結ぶ要として機能している 現代の「結い」を、宇治市の例を参考に検証する(発表 日本語)

3 薬師院仁志 Hitoshi Yakushiin (産消交流研究会メンバー、帝塚山学院大学、社会学)

« Les règles pour la circulation des aliments – la revalorisation du principe du marché » 「食品流通のルートとルール-市場原理の再評価」

食品流通の公正なルールを求めて、産直も含めた現行の様々な流通ルートを検討し、市場原理の本来の役割と意味を問う(発表 日本語)

4 永山和利 Kazutoshi Nagayama (日本大学 経済学)

« Le mouvement pour la promotion de la vente directe arrivera-t-il à réformer le marché au-delà d'une offre alternative ? » 「産直運動は市場補完から市場改革へ前進するのか」

今日の産直運動は産と消の流通直結による利点の受容に留まらない 輸入食材や加工食品の安全性が危惧される日本の食事情に鑑みるならば、消費者にとって、生産の現場が見える産直は、命に関わる重みをもつ それに目をつけたのは、大手スーパーや食品産業で、企業の産直参入が大幅に伸びている 企業主導の産直は、流通経路をどう変え、どんな展開をしていくのだろうか (発表 日本語)

16時15分-17時15分

第3セッション：「日本の提携運動の歴史をふり返る」

*Leçons de l'histoire du mouvement « Teikei » au Japon*

1 柘瀨俊子 Toshiko Masugata (淑徳大学 経済学?)

« Les perspectives et les obstacles pour l'évolution de la relation ville-campagne – réflexion à partir de l'historique du mouvement du Teikei au Japon » 「都市・農村交流の展開と課題-日本の有機農業運動の歴史的展開から(仮)」(発表 日本語)

30年に及ぶ日本の有機農業運動の歴史を概観 都市の消費者が働きかけて生産者を動かし始まった有機農産物の提携産直は、どう変化してきたのか そこに見られる日本の特性とは何か

2 波多野豪 Takeshi Hatano (三重大学 農業経済学)

Organisateur : CRCJR/LAS  
(EA2241)

Laboratoire de recherche  
de l'université Rennes 2 Haute Bretagne

PRIR-VDBJ = Research Programme of Regional Interest

by an international PEKEA Working Group, linked to  
PEKEA project : <http://www.pekea.org>  
A Political and Ethical Knowledge in Economic Activities





2<sup>e</sup> Colloque international du  
Programme de Recherche d'Intérêt Régional  
Vente Directe Bretagne Japon – PRIRVDBJ



Université de Rennes 2 Haute Bretagne

6-7-8 Novembre 2008

« Les divers modes de circulation de produits biologiques: réseau du Teikei ; magasins de produits Bio ; grossistes spécialisés et les perspectives de leur développement » 「有機農産物の多様な流通（ネットワーク型産直とその展望）-産消提携、自然食品店、専門量販店との比較において（仮）」  
有機農産物の流通を基点に日本の農業の今後を展望する（発表 日本語）

3 池上甲一 Kôichi Ikegami (産消交流研究会メンバー、近畿大学、農業経済学)

« La revalorisation du mouvement de la vente directe de type Teikei - à partir des expériences de Teikei entre la coopérative des consommateurs citoyens 'Seikatsu club' et la coopérative agricole de la ville de Yusa du département de Yamagata -» (発表 日本語) 「産消提携型産直の変遷と現代的再評価—遊佐町農協と生活クラブ生協の組合間提携を中心に—」

70年代に提携 10 か条の基本的考えに沿って、始められた都市の消費者と農村の生産者との提携産直が、どんな交流関係を積み上げてきたのか、産と消の協力で開発された米や、公正な価格を求めて編み出した「生産者原価方式」などを例に考察する 30年を経てなおゆるがない絆の力はどこからくるのか 提携産直の人と自然の関係を貫く世界観を問い直す

\* \* \* \* \*

7日 金曜日

9時-10時30分

第4セッション（1）：「都市農業をめぐる市民運動と行政の動き」

*L'Agriculture et ses espaces, interactions des citoyens et des autorités locales.*

1 バルバラ・モンビュロー Barbara Monbureau (造園技師、「景観おこし」協会員)

« L'expérience du Transformateur » [reconquête d'une friche par des activités liées à l'agriculture] 「“景観おこし協会”が取り組む空き地の活性化経験からみた都市と農村の交流」

“景観おこし協会”は、工場の跡や放棄地など公共の空き地を、市や学校や造園技師の協力を得ながら、意味ある景観によみがえらせていく 学校園として教育農園を造ることもあれば、廃棄物を撤去したり、ごみの再利用を工夫することもある 宅地に隣接する農地に牛を放牧し、都市と農村の交流の可能性も探っている (発表 仏語)

2 山崎洋子 Yoko Yamazaki (田舎のヒロインネットワーク代表、おけら牧場経営)

« La ferme Okera, base d'initiative d'un couple néo-rural qui cherche à rétablir la relation ville-campagne » おけら牧場から発信する都市-農村交流の広がり

大学を出てから夫婦で福井県の三国町に新規就農 牛を飼い米や野菜を作る自給生活を基盤に農業のある暮らしの重みと意味を都市の住民に向けて発信する生活を続けてきた おけら牧場は、夫婦が農村に切り開いてきた、食と生き方を考える市民の生活塾である (発表 日本語)

3 姉齒暁 Aki Aneha (産消交流研究会メンバー、駒澤大学、経済学)

« Les principaux obstacles qui ralentissent l'initiative de la ville de Gosen du département de Niigata qui cherche à réintroduire la cantine dans l'école à la place de la cuisine centrale »

「センターから自校方式へ給食を取り戻そう—新潟県五泉市の新たな挑戦と課題」

Organisateur : CRCJR/LAS  
(EA2241)

Laboratoire de recherche  
de l'université Rennes 2 Haute Bretagne

PRIR-VDBJ = Research Programme of Regional Interest

by an international PEKEA Working Group, linked to  
PEKEA project : <http://www.pekea.org>  
A Political and Ethical Knowledge in Economic Activities





老朽化が進むセンターの設備更新を機に、自校方式の給食を取り戻そうという試みが、五泉市でなされている。経費の削減を理由に、給食の民間センター委託化が進むなら、食育の実践を担うのは誰なのか。政府の政策の矛盾を見据えて、五泉市は給食の意味と形を再考した。市民や地元生産者も加えて、皆で課題に対処しつつ、手作り給食を取り戻そうとする五泉市の例を報告する（発表 日本語）

10時30分 – 10時45分 休憩

9時-10時30分

## 第4セッション (2) : 「都市農業をめぐる市民運動と地方行政の動き」

*L'Agriculture et ses espaces, interactions des citoyens et des autorités locales.*

**1 マルク・アンベール Marc Humbert** (産消交流研究会メンバー、レンヌ第1大学 政治経済学)  
« L'agriculture urbaine et la vente directe à La Havane » 「キューバのハバナ市に見る都市農業の課題と可能性」

アメリカの経済封鎖とソビエトの崩壊で89年から93年まで、かつてない食料危機に見舞われたキューバが、野菜畑を市内の各所に造り、都市に有機農業を発展させた。野菜中心の食教育から、家庭菜園の管理まで、農業指導は細かく、安価で新鮮な野菜が買える市がたつ。ハバナ市の場合を例に、都市農業の可能性を考える（発表 仏語）

**2 オディール・カステル Odile Castel** (産消交流研究会メンバー、レンヌ第1大学 政治経済学)  
« Cultures et proximités : déterminant de la vente directe dans les systèmes agricoles territorialisés » 「文化と地域性：農業の地域性を足がかりにした産直の発展」

70年代から、農村地帯で地域の特性を踏まえた産直の形ができあがってきた。産直が村おこの機動力になるかどうかは、仲間づくりの土壌があるか、地域文化の共有がどこまで浸透しているかなどに関っている。ブルターニュの場合、独自の文化圏を構成していて、それが農村の結束を固める基盤になっているのではないかと考える（発表 仏語）

**3 ミッシェル・ルノー Michel Renault** (産消交流研究会メンバー、レンヌ第1大学 政治経済学)  
« Les espaces de la vente directe : une approche transactionnelle » 「産直の“場”の機能性を考える」

産直の“場”というのは、物理的な場だけでなく、人間関係をつむぐ場であり、産直を取り巻く社会環境や、生産活動が規定される場でもある。産直が生み出す空間の多機能性と意味を分析する（発表 仏語）

13時30分-15時30分

## 第5セッション : 「産直が変える農民の暮らしと地域社会」

*Changements personnels et socio-territoriaux avec les agriculteurs pratiquant la Vente Directe*





2<sup>e</sup> Colloque international du  
Programme de Recherche d'Intérêt Régional  
Vente Directe Bretagne Japon – PRIRVDBJ



Université de Rennes 2 Haute Bretagne

6-7-8 Novembre 2008

- 1 セシール・ベルナル **Cécile Bernard** (リヨン第2大学、農業経済学)、  
アニー・デュフル **Annie Dufour** (リヨン第2大学、社会学)

« Les points de vente collectifs de produits fermiers : contribution à une agriculture durable » [Cas vécus en Rhône Alpes] 「農産物の直売店—環境にやさしい農業を目指して」  
農産物の直売店は生産者が労働の改善と収入の増加を目指して始めた試みで、安全で新鮮な農産物を求める消費者の要望にこたえて、発展してきた ローヌアルプ地方 (リヨン市のある地域) にある直売店とそこに出入りする生産者を対象におこなったアンケートをもとに、直売店の利点と役割を分析する (発表 仏語)

- 2 フレデリック・レスキュリュ **Frédéric Lescureux** (リル大 地理学)

« Vente directe et re-territorialisation des agriculteurs dans le Nord-Pas-de-Calais » 「ノールパドゥカレ地方の産直と農業の再生」  
フランス北部、ベルギーに隣接するノールパドゥカレ地方では、産直が地域の小規模農業の維持に貢献している この地方の、様々な産直の形と生産者の居住地帯の広がりを検討し、産直の発展によって、都市の周縁に、農業区域が再生、再編されていく例を示す (発表 仏語)

- 3 ヴィルジニー・ディアズ **Virginie Diaz Pedregal** (社会学 博士)

« Contestations syndicales de la France rurale autour de la légalisation du commerce équitable » [positions syndicales] 「フランス農村部のフェアトレードの合法化に触発された組合運動」  
北と南のフェアトレードにならって、北同士の、地元の産と消の直接取引で、自分たちの暮らしを改善しようという農民運動がおこっている 公正取引は、南北間のみの問題ではない 産直ならば、小規模農家の暮らしが立つよう、話し合いで価格が決められる フェアトレードを促進するのであれば、ヨーロッパ共同体の援助を受けた安価な農産物に、アフリカから輸入される農産物が太刀打ちできない不合理さも検討されるべきだ 公正な価格とは何か プルターニュの農民連やフェアトレード関係者へのアンケート調査を元に、ローカルなフェアトレードとしての産直を考える (発表 仏語)

- 4 ダニエル・ベネゼッシュ **Danièle Bénézech** (産消交流研究会メンバー、レンヌ第1大学 政治経済学)

« Valorisation de la qualité, confiance et proximité : labellisation Vs vente directe ? » (発表 仏語)  
[Comment le « producteur » se fait reconnaître] 「品質の保証とは? 認証マークの安心か、産直で安心できる生産者から買うか」  
生産者は消費者に品質を認めてもらうためにはどうすればよいのか 認証制度は生産履歴や商品の品質に関する情報を買手に示す手段で、価格の差異の説明にも適用される しかし、認証マークはどこまで有効なのか 産消交流の信頼関係と認証マークとは、同じ枠にはめて比較検討できるのだろうか

15h30 – 15h 45 休憩

15時45分-18時15分

第6セッション: 「提携とAMAP、日仏の産直システムの成り立ち、違い、発展性を考える」

Organisateur : CRCJR/LAS  
(EA2241)

Laboratoire de recherche  
de l'université Rennes 2 Haute Bretagne

PRIR-VDBJ = Research Programme of Regional Interest

by an international PEKEA Working Group, linked to  
PEKEA project : <http://www.pekea.org>  
A Political and Ethical Knowledge in Economic Activities





2<sup>e</sup> Colloque international du  
Programme de Recherche d'Intérêt Régional  
Vente Directe Bretagne Japon – PRIRVDBJ



Université de Rennes 2 Haute Bretagne

6-7-8 Novembre 2008

*Teikei et Amap : inspirations, différenciations et évolutions*

**1 館野廣幸 Hiroyuki Tateno** (日本有機農業研究会メンバー、有機農家) 予定

« L'agriculture biologique qui valorise les messages de la nature – Une société Teikei de coopération plutôt qu'une société de marché » 「自然からのメッセージを生かす有機農業-市場社会から「提携」社会へ」

提携産直は自然の恵みによりそって生きる有機農家を支え、農作物を命の糧として循環させる手立てとなる 提携が目指す世界のあり方を、30年にわたる実践体験から語る (発表 日本語)

**2 ジル・マレシャル Gilles Maréchal** (産消交流研究会メンバー、FRCIVAM 農業農村振興連合ブルターニュ事務局員)

« Du teikei à l'AMAP : esprit, es-tu là ? » 「提携からアマップ (AMAP) へ : 提携の精神はどうなった？」

提携をモデルに始まったフランスの産直がアマップ (AMAP) と呼ばれる、農産物の定期契約販売ネットである 第一号は、2001年5月に南仏のオーバーニュで発足、ブルターニュでも次々にグループが生まれている でも提携といえば顔の見える関係だからと、トマトの上に生産者の写真を貼って終わりだったり、相互扶助の精神などはじめから考慮されていなかったり あいまいなまま言葉が一人歩きしている アマップ (AMAP) の創始者グループは、提携 10 か条にならって、加入規約を細かく定めているが、提携の精神を受けついでいるのだろうか 提携 10 か条とアマップ (AMAP) の規約を読み比べ、両者の違いを検討する (発表 仏語)

**3 ベルナル・モンディとジャン＝ルイ・ヴァンク Bernard Mondy et Jean Louis Vincq** (トゥールーズ農業学校研究員)

« Produits fermiers et Economie de la qualité : qualité relationnelle et marchés d'organisation » en français [cas d'AMAP de Midi Pyrénées]

「農家の手作り物産と品質第一の商法 : 大切な交流と組織化された市」

今日の産直は、昔から農家が片手間にやってきた直売とは規模も取り組み方も違っている 2007年に南仏ミディピレネ地方でおこなった調査研究をもとに、様々な形の産直の胎動とその背景、生産者と消費者の交流がつかう信頼関係の重み、安定した産直の形などを検証 (発表 仏語)

**4 ブレーズ・ベルジェ Blaise Berger** (産消交流研究会メンバー、FRCIVAM 農業農村振興連合ブルターニュ事務局員)

« Vente directe et territoire en Bretagne : l'exemple des groupements d'achat » 「ブルターニュの産直実践の様々な形」

ブルターニュの産直実践の胎動は 2007年5月に出版された「分かち合う農業-ブルターニュに芽吹く産直実践」(雨宮裕子編、レンヌ大学出版局)の中で報告した その状況の変動を追跡調査し報告する ブルターニュの場合、アマップ (AMAP) という名称で仲間を募っているグループでも、実際はアマップ (AMAP) とは異なる共同購入グループがいろいろある (発表 仏語)

**5 雨宮裕子 Hiroko Amemiya** (産消交流研究会主催、レンヌ第2大学、民俗学)

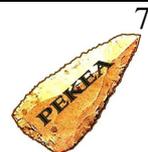
« L'esprit Teikei peut-il s'implanter dans le sol breton ? –réflexion à partir du réseau associatif de la vente directe du Panier Hiroko à Rennes » 「提携はブルターニュに根付くことができるのかーレンヌ市で立ち上げた提携産直ネット “ひろこのバスケット” から」

Organisateur : CRCJR/LAS  
(EA2241)

Laboratoire de recherche  
de l'université Rennes 2 Haute Bretagne

PRIR-VDBJ = Research Programme of Regional Interest

by an international PEKEA Working Group, linked to  
PEKEA project : <http://www.pekea.org>  
A Political and Ethical Knowledge in Economic Activities





2<sup>e</sup> Colloque international du  
Programme de Recherche d'Intérêt Régional  
Vente Directe Bretagne Japon – PRIRVDBJ



*Université de Rennes 2 Haute Bretagne*

6-7-8 Novembre 2008

アマップ (AMAP) は、ブルターニュでもどんどん増えている。しかし、その実態は提携とは形も目的も大きく異なり、提携という言葉自体、フランスでどこまで理解されているのか疑問である。農業圏ブルターニュでも、生産者と消費者の分断は明確で、人の輪の調和より個の確立が優先されている。アマップ型の産直は、それを見越して、一人の生産者とグループの消費者が交わす契約に設定してある。アマップ (AMAP) は、農民が小規模経営の農業を維持していくために、消費者の支援を募る形でおこなわれる産直である。農業を営み農業の行く末を見つめるのはあくまで農民で、彼らは消費者の援助を生産の場にまで求めてはいない。アマップ (AMAP) のグループは国内メンバーの組織化を急いでいるが、農協に対抗する、連合体を編成するには、まだ道が遠い。では、元祖日本型の生産者と消費者が、協力し合って取り組む提携産直は、フランスの土壌には定着できないのか。提携の考えのもとにある、人と自然の関りや、人を思いやる交流の形を何とか伝えたいと思い、研究仲間の協力を得て、レンヌ市内に提携産直ネットを立ち上げた。それが「ひろこのバスケット」で、有機農産物の生産者 0 人と消費者は 20 人で、開始した 1 年半が経って、この経験から見えてことは大きい。フランスでの提携産直の展開を紹介する。(発表 仏語)

**Soirée dîner – film débat (à confirmer) 夜 映画上映とディナーパーティー**

11月7日 土曜日

8時–9時30分 レンヌ市内 リス広場の朝市見学

10時-12時 産直農家の広間で一般公開討論会

終了

Organisateur : CRCJR/LAS  
(EA2241)

Laboratoire de recherche  
de l'université Rennes 2 Haute Bretagne

PRIR-VDBJ = Research Programme of Regional Interest

by an international PEKEA Working Group, linked to  
**PEKEA project : <http://www.pekea.org>**  
A Political and Ethical Knowledge in Economic Activities

